

北海道倶知安農業高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	・地域性を生かして、農業教育の質を向上させ、生徒の達成感を実感できる取り組みを充実させる。	・日本農業技術検定3級の合格率100%を目指し、分野ごとに教科内指導を実践した。 ・研究班活動の充実では畜産班が全道大会へ出場。農業鑑定競技では2名が全国大会に出場した。	・日本農業技術検定は、合格率の向上に向けて、継続的に指導していく。 ・発表力を含めた総合力を向上させ、全道大会入賞を目指していく。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	・地域性を生かし、農業の国際化に対応したグローバルな教育活動を展開する。	・国際色豊かなこのニセコエリアで、外国人の入学や留学生の受入など、地元地域の特徴を生かした農業教育を実践した。	・留学生の受入については、可能な限り継続していく。 ・外国人入学生については、支援員や教員組織の連携により、少しずつ体制が整ってきている。	5
II 地域社会・産業 に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	・地域の特色を生かした生産技術の学習を展開し、地域を支える人材育成を目指す。	・和牛のブランド化や日本酒「忠」の原料生産等、地元を意識した学習活動を継続発展。 ・半導体使用自動追従運搬車の活用などスマート農業の研修会、土木関連講座現場視察など多数実践した。	・和牛、日本酒、有機栽培、スマート農業、更にはコース変更に伴う農業土木関連講座などを中心に学習活動を継続・充実させていく。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	・農業の6次産業化の学習を展開し、地域産業を担う人材を育成する。	・地元酒造会社と連携・協働した日本酒づくり、酒粕の商品開発などの学習活動を継続して実践した。 ・倶農グラスフェッド和牛の創出により、生産から流通販売まで継続して実践した。	・今後も、地元企業や生産者、地元ホテルやレストランなどと連携・協働を継続していく。	5
III 地球環境を守り 創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	・持続可能な農業生産への取り組みを充実させる。 ・SDGsを意識した農業生産の取り組みを充実させる。	・動植物の基本的な生理生態の基礎知識を身につけ、時代に即した生産工程管理を学習させ、充実した。 ・JGAP基準に沿った農産物の生産を行い、SDGsを意識した展開を実践した。	・地球環境の変化を生徒個々が身近なことと捉え、危機感を持って持続可能な農業生産について探求できるように指導していく。	5
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	・地域未利用資源の活用や地域の人材、自然の恵みを積極的に活用する。	・地域の未利用資源である酒粕や豆腐かす、草資源の積極活用による畜産物生産を実践した。 ・地元で廃棄される食品加工の副産物を活用した商品開発の研究が充実した。	・未利用資源の活用については、その有用性や価値について総合的に判断出来るよう、実証試験を積み重ね、各分野で地域連携を深めていく。	5
IV 地域交流の拠点 となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	・農業の基礎基本を見直し、工程の見える化、自動化の基礎を学び、応用できる人材を育てる。 ・農業生産者と農業理解者が共に豊かな環境を構築できる、情報環境づくりを目指す。	・企業と連携し、半導体を活用したスマート農業に関する講習会や視察研修を実施した。 ・交流学習や学校視察の受入、生産物販売会等を通じて、コミュニケーション能力が向上した。	・スマート農業など、先進企業との連携を更に充実させ、継続的に実施していく。また、交流会や視察等も多数あったが、有意な事は積極的に継続していく。	4
V 地域防災を推進 する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	・地域防災に努め、危機管理に対する意識を高める。	・農場の環境整備を徹底するとともに、防災への意識高揚を図り、安全教育を推進した。 ・GAPの手法に沿ってのリスク管理の学習を通して、生徒への安全教育を推進した。	・学校施設設備の修繕や保管について、防災という観点から、継続して積極的に対処していく。	3